

産地生産基盤パワーアップ事業
都道府県事業計画書（収益性向上対策）
（都道府県事業実施状況報告書兼評価報告書）

都道府県名 山形県

I 産地パワーアップ計画（収益性向上タイプ）

1 成果目標

(1) 生産コスト又は集出荷・加工コストの10%以上の削減

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標	現状												スマート農業推進待 導入・定着の取組の実施内容	事後評価の検証方法 （※定量的な検証ができること。）	達成率 （%）	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考
						現状				目標				実績									
						年度	面積 単位	生産量、出荷量、 又は処理量 単位	年度	面積 単位	生産量、出荷量、 又は処理量 単位	年度	面積 単位	生産量、出荷量、 又は処理量 単位	年度	面積 単位	生産量、出荷量、 又は処理量 単位						
上市市農業再生協議会	4	上市市西郷	大豆	①現行よりも刃幅の大きい汎用コンバインをリース方式で導入し、刈取作業効率を高め、労働費を削減する。 ②作付面積の拡大に伴い農地利用集積により作業効率の向上を図る。 ③肥料・農薬の種類や使用量の見直しにより諸材料費等を削減する。	生産コストの10%以上削減【10.1%削減】	H30	50,621円/10a	34.7 ha	52,035 kg	R3	45,498円/10a	39.8 ha	71,640 kg	R3	45,474円/10a	38.8 ha	76,980 kg	決算書等の関係資料により検証	100.5%	経費削減に努め、農地利用集積を進め作業効率向上を図り、目標達成できた。	高性能な農業機械のリース導入により、コスト削減と規模拡大が進み、目標を達成できた。	R4評価	
舟形町農業再生協議会	5	長沢1、長沢2、長沢3地区	水稲	①防除用ドローンの導入により、これまでの地上防除作業から省力化を図り、新たな防除体系を確立してコストを削減する。 ②農地中間管理事業を活用し、農地の集積により取組み、効率的作業体系を確立して生産コストの削減を図る。 ③肥料等の資材を共同一括購入に切り替えるなどして資材費を削減する。 ④密播種栽培用田植機の導入により、資材費を削減するとともに、育苗及び定植に係る労働時間を削減する。 ⑤密苗用田植機の導入により、資材費を削減するとともに、育苗及び定植に係る労働時間を削減する。	生産コストの10%以上の削減【10.8%削減】	H28	107,234円/10a	25.6 ha	139,350 kg	R3	95,616円/10a	28.8 ha	168,413 kg	R3	61,750円/10a	43.6 ha	162,491 kg	構成員全員の水稲生産コストの合計値を栽培面積合計で除した10a当たりの金額について、H28年度とR3年度を比較し、目標を達成しているか確認する。所得税青色申告決算書、営農計画書、作業日誌等により生産コストの削減を検証する。	391.5%	生産コストの削減、栽培面積の拡大及びドローン防除等の作業受託面積の拡大により、生産コストの削減が順調に進み目標を達成した。	生産コストの削減、栽培面積の拡大及びドローン防除等の作業受託面積の拡大により、生産コストの削減が順調に進み目標を達成した。	R4評価	
舟形町農業再生協議会	9	舟形1、舟形2、一の関、大平	水稲	①経営規模の拡大に伴い高性能農業機械を導入し、作業効率を高め、労働費を削減する。 ②生産に必要な肥料や農薬といった資材の購入方法や作業方法等を見直し、物財費を削減する。 ③疎植栽培とペースト側条施肥の導入による種苗費、育苗及び定植、基肥施肥に係る労働時間の削減に取り組む。 ④農地中間管理事業を活用して経営規模を拡大する。	生産コストの10%以上の削減【10.7%削減】	H29	100,745円/10a	35.1 ha	204,072 kg	R3	89,953円/10a	46.9ha	273,423 kg	R3	76,714円/10a	60.0 ha	263,165 kg	構成員全員の水稲生産コストの合計値を栽培面積合計で除した10a当たりの金額について、H29年度とH33年度を比較し、10%以上削減しているか確認する。所得税青色申告決算書、営農計画書、作業日誌等により生産コストの削減を検証する。	222.7%	生産コストの削減及び栽培面積の拡大により、生産コストの削減目標を達成することができている。米価の下落及び生産資材等の高騰、度重なる自然災害発生等により水稲栽培を取り巻く環境は厳しさを増しているが、今後も引き続きコスト削減に取り組むながら、産地の拡大に取り組んで頂きたい。	資材費の削減や規模拡大が進み目標を達成することができた。	R4評価	
米沢地域農業再生協議会	6	南原・山上・万世・上長井・楯井・広幡・三沢・旧市地区	そば	①コンバインの高度化を図り、作業効率を高めて収穫期間を短縮し、刈取り作業にかかる人件費を削減する。 ②規模拡大に伴い作業体系を見直し、効率的な作業体系を確立して労働費を削減する。 ③耕耘同時駆立して播種等による高品位安定生産に向けた取組を行う。	10a当たり生産コストの10%以上の削減【10.1%削減】	H30	14,489円/10a	118 ha	78,278 kg	R3	13,025円/10a	128 ha	82,000 kg	R3	14,943円/10a	128 ha	132,615 kg	収支決算書、作業日誌等の資料により検証	-31.0%	そばの作付面積は計画どおり拡大することができた。令和3年に関しては賃借料及び料金での残金繰り上げ償還によりコストが増加した。また、豊作により作業量が増え、労働費(雇用)が増加した。今後も作付面積を維持するとともに引き続きコスト削減に取り組むよう主体あて指導していく。	令和2年は目標値を達成していたが、令和3年は賃借料及び料金の残金繰り上げ償還及び豊作による作業量増加に伴う雇用費が増加し目標達成に至らなかった。作付面積を維持しながらコスト低減に取り組むよう指導する。	R4評価	
鶴岡市農業振興協議会	12	温海	水稲	・規模拡大に伴い高性能機械（ドローン）をリース導入して作業効率を高め10a当たり生産コストを削減する。 ・農地の取得、賃借等による農地集積と規模拡大を行う	生産コストの10%以上の削減【10.1%削減】	H30	104,407円/10a	10.64 ha	50,419 kg	R3	93,884円/10a	19.62 ha	97,537 kg	R3	112,313円/10a	9.45 ha	46,088 kg	税務申告における収支決算書及び営農台帳等の関係資料による。	-75.1%	更に面積拡大を図り、生産コスト削減に向け組織での更なる栽培管理等の見直しを指導した。	地域の農家から10haの作業受託を見込み事業計画を組んだが、条件が合わず契約に至らなかったため目標を達成できなかった。地域内の別の農家と受託契約をする等、規模拡大に向けた取組を進めるよう指導していく。	R4評価	

舟形町農業再生協議会	7	舟形町 全域	アスパラガス	アスパラガス産地の形成の推進 ① 作付面積拡大と栽培技術の向上により、農業者の増産を目指す。 ② 栽培技術の導入により、栽培規模の拡大と省力化を図る。 ③ 定規・収穫機、調整機の導入により作業を効率的に行い、栽培規模の拡大と省力化を図る。 ④ 長期にわたる支持と灌水設備の導入により、収量確保と省力化を図る。また、水不足を確保し、安定した収量を確保する。 ⑤ 新規組合員の加入により、アスパラガスの圃場をさらに広げし作付面積の拡大を図る。	販売額の10%以上の増加 【11%の増加】 【14.2%の増加】	642千円/10a	1.78 ha	10.8 t	1,060 円/kg	R3	733千円/10a	3.5 ha	28.5 t	900 円/kg	R3	1,103千円/10a	3.50 ha	34 t	1,134 円/kg	1,182 円/kg	1,352 円/kg	0.874	963千円/10a	所得税青色申告決算、高麗計簿、作業日誌等により販売額の増加を確認する。	352.7%	生産資材導入による圃場造成、作業機械の導入による効率化、省力化によって生産量の目標を大きく超えることができた。異常気象の影響が少なく、単価も安定していることから、農業者の意欲により販売額が増加している。今後とも作業の適期実施及び生産技術の向上により、さらなる生産量の増加を目指す。	本事業を活用しての圃場造成、機械導入による目標達成を達成しただけでなく、生産量の目標も大きく超えている。今後も作業の適期実施及び生産技術の向上により、さらなる生産量の増加を目指す。	R4評価
舟形町農業再生協議会	12	舟形町 全域	にんにく	① 経営規模の拡大に伴い増産を導入するとともに、栽培技術の向上に努め、農業者の増産を目指す。 ② 定規・収穫機、調整機の導入により作業を効率的に行い、栽培規模の拡大と省力化を図る。 ③ 収穫機を導入し、適期収穫をすることで品質の向上を目指す。 ④ 産地管理事業を活用して経営面を拡大する。また、産地を集約し作業効率向上を図る。	販売額の10%以上の増加 【174.5%の増加】	127千円/10a	0.51 ha	785 kg	833 円/kg	R3	349千円/10a	1.02 ha	4,284 kg	833 円/kg	R3	357千円/10a	1.12 ha	4,337 kg	923 円/kg	817 円/kg	981 円/kg	0.833	298千円/10a	構成員全員のみに販売額の合計額を取引組合計で除した10aあたりの金額について年度間を比較し、10%以上増加しているか確認する。	77.0%	作業を機械化したことで作業が省力化でき、面積を拡大することができた。先進地視察などの研修を積極的に行ったことにより、栽培技術の向上が図られた。また、早期に収穫機を導入し、適期収穫をすることで品質の向上が図られた。今後も作業の適期実施及び生産技術の向上により、さらなる生産量の増加を目指す。	10a当たりの販売額のみならず、作付面積、販売額も大きく超えている。今後も作業の適期実施及び生産技術の向上により、さらなる生産量の増加を目指す。	R4評価
真室川町農業再生協議会	4	真室川町 全域	さといも	・さといも毛羽切機を導入し、効率的な調整を行い、安定した出荷を行う。 ・ロータリーを導入し耕転作業の省力化を図る。 ・収穫機を導入し、さといもの圃上作業時の省力化を図る。 ・葉用管理機を導入し、さといも定植時の土寄せから施設作業を効率的に行い、省力化を図る。 ・ブームスプレーを導入し、防除作業の省力化を図る。 ・運搬機を導入し、圃場内での運搬作業の省力化を図る。効率的に調整・出荷する。 ・管理機（マルチ形成機）を導入し、省力的に行うおぼろ及びマルチ作業を行い、生産性の向上に取り組む。 ・プロムスプレーを導入し、防除作業の省力化を図る。 ・運搬機を導入し、圃場内での運搬作業の省力化を図る。効率的に調整・出荷する。 ・管理機（マルチ形成機）を導入し、省力的に行うおぼろ及びマルチ作業を行い、生産性の向上に取り組む。 ・トラクターを導入し、土壌の耕起作業等の時間短縮及び省力化を図る。 ・つる切機を導入し、茎の葉及び茎の刈り取り作業を行い、圃場に還元し土づくりを行うとともに、従来の葉及び茎の廃棄場所までの運搬作業もなくなり省力化を図ることができる。 ・マニキュアスプレッダを導入し、堆肥の効率的かつ適期散布と省力化を図る。 ・移植機を導入し、種子の播付作業の省力化を実施し、生産性向上を実現する。	販売額の10%以上の増加 【68.7%の増加】	422千円/10a ※平均25-平27	9.8 ha	さといも 108,168 kg	さといも 302 円/kg	R3	535千円/10a	21.4 ha	さといも 286,640 kg	さといも 399.3 円/kg	R3	376千円/10a	20.4 ha	234,000 kg	328 円/kg	282 円/kg	299 円/kg	0.943	355千円/10a	構成員の青色申告簿、高麗計簿等により販売額の増加を確認する。	-59.3%	運営障害の影響による収量の大幅減少、そして新型コロナウイルス感染症の影響が少なく、単価も安定している。また、先進地視察などの研修を積極的に行ったことにより、栽培技術の向上が図られた。また、早期に収穫機を導入し、適期収穫をすることで品質の向上が図られた。今後も作業の適期実施及び生産技術の向上により、さらなる生産量の増加を目指す。	運営障害の影響による収量の大幅減少、そして新型コロナウイルス感染症の影響が少なく、単価も安定している。また、先進地視察などの研修を積極的に行ったことにより、栽培技術の向上が図られた。また、早期に収穫機を導入し、適期収穫をすることで品質の向上が図られた。今後も作業の適期実施及び生産技術の向上により、さらなる生産量の増加を目指す。	R4評価
鮎川村農業再生協議会	1	鮎川村、戸沢村	農地野菜（アスパラガス）	アスパラガスの作付面積を拡大するとともにアーチタイプ等の導入により、収量性と品質の向上を図ること、鮎川村、戸沢村のアスパラガス販売額の10%以上の増加を図る。	総販売額10%以上の増加 【64.2%の増加】	13,347,000 円	2.23ha	77a ² 11,185 kg	77a ² 1,171.7 円/kg	R3	21,915,000 円	5.01ha	77a ² 21,915 kg	77a ² 1,000 円/kg	R3	21,823,714 円	5.95 ha	17,400 kg	1,254 円/kg	1,133 円/kg	1,218 円/kg	0.930	19,826千円	もがみ中央農協輸出部門の販売実績報告により検証確認する。	75.6%	作付面積は圃場に拡大してきている。アスパラガスの作付後、収量は安定するまで3年ほど必要であることから、今後の生産性や収益性の向上を期待する。また、生産量が増加するよう栽培管理の徹底を指導している。また、適期防除や栽培管理の徹底により単収確保の安定化が必要である。	面積は現状から増加している。アスパラガスの作付後、収量は目標に到達していない。土壌分析により適切な管理を行うことにより、単収確保の安定化を期待する。また、生産量が増加するよう栽培管理の徹底を指導している。また、適期防除や栽培管理の徹底により単収確保の安定化が必要である。	R4評価
鮎川村農業再生協議会	3	鮎川村	きゅうり	きゅうりの管理機を導入し、生産規模・生産量拡大することにより所得向上を図る。	総販売額の10%以上の増加 【10.4%増加】	97,578,810 円	3.51 ha	351 t	278 円/kg	R3	107,752,800 円	3.68 ha	387 t	278 円/kg	R3	#####	3.5 ha	305 t	232 円/kg	307 円/kg	292 円/kg	1.051	74,368,760 円	事業実施主体の販路実績報告により検証確認する。	-228.1%	令和2年度の実績と比較して、10a当たりの生産量は、増加したものの、全国的に産地間であったこともあり、単価が低迷した。加えて、非産者の減少により、生産者の減少が懸念されている。また、生産性が向上するよう栽培管理の徹底を指導している。また、適期防除や栽培管理の徹底により単収確保の安定化が必要である。	面積、収量、総販売額とも目標未達成である。新規生産者の確保が喫緊の課題であることから、新規生産者に取組むための支援を行うことにより、生産量の増加を目指す。また、生産性が向上するよう栽培管理の徹底を指導している。また、適期防除や栽培管理の徹底により単収確保の安定化が必要である。	R4評価
川西町農業再生協議会	9	大塚	きゅうり	① 圃場の集約による圃地を形成し、栽培技術の高位転移・作業の省力化を図る。② 新規栽培者と熟練栽培者が同じ圃地で栽培することにより、栽培技術の早期確立を図る取組	販売額の10%以上の増加 【47.5%の増加】	1,015,000円/10a	2.39 ha	77,370 kg	313 円/kg	R3	1,497,000円/10a	2.39 ha	110,655 kg	323 円/kg	R3	1,151,000円/10a	2.63 ha	104,026 kg	291 円/kg	366 円/kg	261 円/kg	1.402	1,614,000円/10a	JJA山おきたまの共販明細で確認する。	124.3%	低単価が続き、収量の減少もあるなど厳しい状況であったが、事業の導入の成果があり、成果目標を達成することができている。一方で、出荷量については、8月上旬の強風により果実が減少した。今後の目標達成に向けては、出荷量の確保を確保するために、果実減少への対策等を徹底し、さらなる販売額向上につながる取組を続けていくよう指導した。	令和2年度より圃地での作付が本格化し、コロナの影響による単価低下の影響があったものの、成果目標を達成することができている。一方で、出荷量については、8月上旬の強風により果実が減少した。今後の目標達成に向けては、出荷量の確保を確保するために、果実減少への対策等を徹底し、さらなる販売額向上につながる取組を続けていくよう指導した。	R4評価

白鹿町農業再生協議会	5	白鹿町	地域特産物（ホップ）	自走マニアスプレッドの導入、堆肥散布による安定した収量確保、キリン（株）との契約栽培、堆肥散布作業の効率化・省力化、高品質安定生産に向けた栽培管理の徹底	販売額の10%以上の増加 (13.5%増)	400千円/10a	5.11 ha	8.732 kg	2.341 円/kg	3	454千円/10a	4.77 ha	8.732 kg	2.479 円/kg	535千円/10a	4.08 ha	9.021 kg	2.479 円/kg	ホップ生産実績書の写しで確認する。	250.0%	ホップの生産高には気象要因（特に降水量）が大きな影響を及ぼしており、降水量が十分に確保できない場合は、気象変動の影響を受けやすい状況にある。 マニアスプレッド導入による効果が顕著であり、また、実需者との契約栽培や、安定した高品質生産に向けた栽培管理に取り組むことにより、実績は現状を上回っている。 令和2年度は構成員1名の産出があり、それに伴う販路の減少、及びその他1名の構成員が産出調整を行ったことによる産出の減少があったものの、販売目標の達成を大幅に達成することができている。今後も事業で導入したマニアスプレッドの活用等により、引き続き販売額向上を目指すよう指導していく。	令和2年度に構成員1名の産出があり、面積についても減少し目標の作付面積とはなっていないものの、マニアスプレッド導入の効果に加え、実需者との固定価格での契約栽培や徹底した栽培管理により、目標を大幅に達成する結果となっている。今後もこうした管理を維持していくよう指導した。	R4評価 実需者との契約栽培を行っており、予め価格を固定しているため、価格補正は行わない。
------------	---	-----	------------	--	--------------------------	-----------	---------	----------	------------	---	-----------	---------	----------	------------	-----------	---------	----------	------------	-------------------	--------	--	--	--

(3) 契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上とすること

地域協議 会名	整理 番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標												事後評価の検証方 法(※定量的な検証 ができること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考				
					現状			目標			実績														
					年 度	面積 単位	総生産量又は 契約取引量 単位	年 度	面積 単位	総生産量又は 契約取引量 単位	年 度	面積 単位	総生産量又は 契約取引量 単位												
舟形町農 業再生協 議会	11	長沢1 長沢2 長沢3	そば	①経営規模の拡大に伴い高性能農業機械を導入するとともに、作業方法等を見直すことで作業効率を高め、生産量を増加させる。 ②調製作業に必要な機械を導入し、出荷物の品質を高め、販売額の増加を目指す。 ③生産量の増加に伴い、販売価格の安定している契約栽培の取組みを拡大し、収益を確保する。 ④農地中間管理事業を活用して経営面積を拡大する。また、農地を集約し作業効率向上を図る。	契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上 【50.1%増加】	H 30	契約栽培の割合 0%	7.7 ha	1,037 kg	0 kg	R3	契約栽培の割合 50.1%	8.5 ha	1,697 kg	851 kg	R3	契約栽培の割合 53.3%	8.7 ha	5,067 kg	2700 kg	そば契約栽培の契約書及び領収書等により契約栽培量把握し、全生産量で除して得た契約栽培率について、R元年度とR3年度を比較し、目標を達成しているか検証する。	106.4%	栽培面積と生産量を順調に増加させるとともに、契約栽培の契約を締結したことで、目標を達成することができている。今後も生産量の増加を図りながら、産地の拡大に努めて頂きたい。	令和3年度は予定通り契約が成立して、目標を達成した。	R4評価

(6) 労働生産性の10%以上の向上

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標																				スマート農業推進特 年度導入・定着の取組の実施内容	地域(県又は国を含む)の価格(販売単価)			補正係数	価格補正後の実績	事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)	達成率(%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考
					現状					目標					実績					事業実施前年度	目標年度	前年度													
					年度	面積	生産量又は出荷量	価格(販売単価)	労働時間	年度	面積	生産量又は出荷量	価格(販売単価)	労働時間	年度	面積	生産量又は出荷量	価格(販売単価)	労働時間																
大蔵村農業再生協議会	5	大蔵村	水稲	①高性能トラクター及びコンバインの導入による生産規模の拡大 ②高性能トラクターの導入による耕起整地作業の効率化 ③高性能コンバインの導入による刈取脱穀作業の効率化 ④農地中間管理事業を活用した農地集積による作業の効率化	労働生産性の10%以上の向上 【10.0%向上】	H30	5,644円/h	36.1 ha	161,340 kg	12,962円/60kg	6,176 h	R3	6,211円/h	37.1 ha	178,187 kg	12,941円/60kg	6,188 h	R3	5,540円/h	34.5 ha	197,010 kg	9,511円/60kg	5,637 h	261.5円/kg	214.3円/kg	1.22	6,759円/h	196.6%	継続的に米の効率的な刈取作業と労働時間の削減が図られている。令和3年産米の米価が大幅に下落した影響を受けて販売額が昨年より下がったものの、目標年までの期間において、農事組合法人の決算書及び営農計画書、作業日誌により労働生産性向上を検証する。	農事組合法人の水稲の販売金額を10a当たりの労働時間で除した労働生産性を算出。実施年から目標年までの期間において、農事組合法人の決算書及び営農計画書、作業日誌により労働生産性向上を検証する。	今後生産管理を徹底しながら、耕起整地および刈取作業の効率的な実施による労働生産性の向上に努めていきたい。	高性能機械のリース導入により労働生産性が向上して目標を達成した。	R4評価		
南陽市農業振興協議会	4	宮崎地区	水稲	高性能農業機械(兼用型田植機)の導入、受益面積の拡大	労働生産性の10%以上の向上 【10.0%向上】	H30	4,766円/h	50.0 ha	250,000 kg	41,285千円	8,662 h	R3	5,243円/h	51.0 ha	275,000 kg	41,792千円	7,971 h	R3	5,032円/h	50.9 ha	271,590 kg	39,560千円	7,862 h	261.5円/kg	214.3円/kg	1.220	6,139円/h	287.8%	構成員個々の研修申告における収支計算書及び作業日誌等の関係資料による。	米価下落により総販売額が減少したが、密着仕様兼用型田植機の導入により労働時間を削減することができた。今後関係機関と連携しながらさらなる成果向上に向けて支援していく。	リース導入した高性能な密着仕様兼用型田植機の効果により、労働時間の削減が図られ、目標を達成した。	R4評価			

都道府県平均達成率 75.1%

総合所見
対象地区22件のうち未達成は7件で、野菜、水稲及びそばを対象とし、販売額増加またはコストの削減を目標とする計画において未達成がみられた。水稲においては、新型コロナ感染拡大による業務需要の減少から米価が下落する中で、農業者の資材価格の上昇や面積拡大が計画を下回る等の要因により、目標とするコスト低減を達成できない計画があった。効果的な防除や圃場集積によるコスト低減の取り組みを徹底するよう指導していく。野菜においては、霜害等による生産量の減少や新型コロナ感染拡大による需要減等の影響により販売額が伸びない計画があった。気象災害対策や販売の多様化など、生産・販売の安定化を指導していく。その他の品目では、果樹においては4月の降雪被害によりほとんどの樹根において生産量が大幅に減少したほか、花きでは、とくに新型コロナ感染拡大による需要減等の影響が大きかった。降雪を中心とする気象変動への対策や販路拡大の指導を進めていく。

- (注1) 「整理番号」欄には、地域協議会等ごとの産地パワーアップ計画の整理番号を記載すること。
- (注2) 果樹の改修を行う場合は、「作物名」欄に対象品目、品種を記載すること(都道府県事業実施方針に定める対象品目、品種に限る)。
- (注3) (2)及び(6)の「地域(県又は国を含む)の価格(販売単価)」欄については、事後評価時に使用するものとし、地方卸売市場取引価格などを基に事業実施前年度と、目標年度の価格(販売単価)を記載すること。なお、分みつ種計画の場合は、販売価格に国内産雑交付金を加えること。
- (注4) (2)及び(6)の「補正係数」欄については、事後評価時に使用し、「地域(県又は国を含む)の事業実施前年度の価格(販売単価)÷地域(県又は国を含む)の目標年度の価格(販売単価)」により算出した値を記載し、「価格補正後の実績」欄には、「実績欄の価格(販売単価)×補正係数×実績欄の数量-生産コスト」で算出した額をもって現状及び目標と対比可能な数値を記載すること。また、「達成率」欄については、「価格補正後の実績」欄に記載の数値をもって算出すること。なお、「補正係数」は小数点以下4桁目を四捨五入し、小数点以下3桁とすること。
- ただし、予め価格を固定した契約取引など、市場の需給といった外的要因等による価格変動が生じないときは、価格補正は行わないものとする。
- (注5) (5)の「成果目標」欄については、実施要領第4の5の(1)の⑤に基づき設定した成果目標の内容を記載すること。
- (注6) 「都道府県の評価」欄については、実績時及び事後評価時に使用するものとし、①産地の現状、課題・問題点、②本事業の取組や産地独自の取組による効果や成果目標の達成状況、③実績等が現状を上回る又は下回る場合の具体的な要因、④達成状況が低調な場合における具体的な指導内容等を記載すること。
- (注7) 取組のない場合であっても、(1)～(6)は削除しないこと。
- (注8) 中山間地域所得向上支援事業と連携する産地パワーアップ計画である場合、特別枠(スマート農業推進枠)を利用する当該計画の場合は、備考欄にその旨を記載すること。
- (注10) スマート農業推進枠を利用する計画の場合は、備考欄にその旨を記載すること。また、スマート農業推進枠を活用して技術を円滑に導入・定着させるための取組を農業機械等の導入に併せて実施する場合は「スマート農業推進枠」に取組内容を記入すること。
- (注11) 畑輪作確立枠を利用する計画の場合は、別添(畑輪作確立枠計画書(実施状況報告書業評報告書))を添付すること。
- (注12) 総合所見欄は、評価報告の際に各取組ごとの都道府県の評価を記載すること。